



会社の強みをより強固に

今年、第5次中期経営計画の最終年度となる。業績目標は前倒しで達成するなど順調に推移しており「賃上げ、物価上昇分など懸念材料はあるものの、現中計での業績目標を達成し、6次中計に良いかたちでつなげていきたい」と意欲を示す。

2023年を目標とする長期ビジョン「次世代創造企業」を目指す基盤整備と位置付ける現中

計では、目玉としてDX(デジタ

ルトランスフォーメーション)

推進による社内バリューチェー

ンの刷新に向けた新システムを

導入、昨年から一部で稼働をス

タートし、今年6月には全シス

テムでの稼働を予定している。

新分野への展開については、

デジタル田園都市構想(岡山県

笠岡市のスマートアイランド構

想)への参画、AUV(自律型

ている」と話す。

一方で、会社の強みをより強

固なものとしていくため「業績

の柱である橋梁設計、橋梁メン

テナンス分野の競争力向上、都

市・マネジメント、廃棄物、環

境分野の拡大、新しい展開を目

指して組織の一部変更を予定し

ている」と話す。「専門分野そ

れぞれが力を発揮するには組織

が少し大きすぎる部分がある。

献ビジネスについても新たな展

開を予定している。

海外展開については、「タイ

国の現地法人を軸とした同国市

場への参入に向けた現地企業と

のアライアンス、海外事業規模

の拡大を目指した国内企業との

アライアンス、東アフリカへの

現地事務所の設立などを進めた

い」と積極的な事業規模拡大を

計画する。

今年から着手する第6次中計

の策定については「担い手不足、

社内の人員構成のいびつさな

ど、これまで、職員のがんばり

で何とか業績を達成してきた部

分が徐々に厳しくなっている

」と話し、「過去の成功体験にと

らわれ過ぎず、真摯に足元を見

ながら歩みを進めていきたい」

と、これまでとは異なる課題に

対峙しながら経営を進める必要

性を強調する。

無人潜水機)活用による新規ビ

ジネス参入、海外での脱炭素社

会構築に向けた環境関連業務の

受託とインフラメンテナンス事

業参画などで成果を上げた。

「これまでの活動が色々な方面

で実を結びつつあり、次期中計

に向けて楽しみな状況をつくれ

